



福井市自然史博物館

博物館だより

FUKUI CITY MUSEUM OF NATURAL HISTORY NEWSLETTER



福井の自然史情報

福井県のカエル

2009年、勝山市でナガレタゴガエルの分布が確認され、福井県内で記録されているカエルは4科14種となりました。福井県は他県と比較して、カエルを含む両生類の多様性が保全され、個体数も比較的多いとされていますが、近年では圃場整備などの影響を受けて、カエルも減少しているようです。県内でも、その分布や斑紋の変異など、調べるテーマがまだまだたくさん残されています。水辺に生きる小さな命に少し目を向けてみませんか？

①アマガエル(U)／②ニホンアカガエル(N)／③ヤマアカガエル(U)／④タゴガエル(N)／⑤ナガレタゴガエル(K)／⑥トノサマガエル(U)／⑦ツチガエル(N)／⑧ウシガエル(N)／⑨モリアオガエル(Y)／⑩シュレーゲルアオガエル(U)／⑪カジカガエル(N)／⑫アズマヒキガエル(U)／⑬ナガレヒキガエル(U)

文：梅村信哉、写真：川内一憲(K)、梨木之正(N)、吉澤康暢(Y)、梅村信哉(U)



中面と裏面に詳しい解説があります。

世界の大むしむし展

福井市自然史博物館 第76回特別展

開催期間 2013年7月13日(土)～9月23日(日)

開催中です!

現在、地球上で最も繁栄している生物群は昆虫で、深海をのぞく地球上のあらゆる環境に見られます。その種数は100万種以上にも及び、すべての動物種の7割以上、生物全体の5割以上の種数を占めるといわれています。ほかの生物に比べて形態の多様性は群を抜いています。

今回の特別展では、福井市在住の昆虫研究家、下野谷豊一氏のコレクションから、世界の巨大な昆虫、美しい昆虫、へんてこな形の昆虫を一堂に展示します。図鑑で眺めて憧れたあのカブトムシやクワガタムシから、宝石のように美しい昆虫、思わず「えっ!? こんな昆虫もいるの?」とびっくりしてしまう奇妙な形の昆虫までが大集合!! 大自然が作り出した芸術品である昆虫の世界を思う存分にお楽しみください。

(学芸員 梅村信哉)

① 世界のカブトムシ・クワガタムシ



ギラファノコギリクワガタ

ヘラクレスオオカブト、コーカサスオオカブト、ゾウカブトなど大迫力の大型カブトムシや、ギラファノコギリクワガタ、マンディブラリスフタマタクワガタのようなカッコいいクワガタムシまで、世界の有名なカブトムシ・クワガタムシを一堂に展示しています。昆虫少年なら一度は憧れたであろうカブトムシ、クワガタムシの実物を見るチャンスです。ヘラクレスオオカブト、コーカサスオオカブト、ゾウカブト、ニジイロクワガタは生きたものも展示しています。ヘラクレスオオカブトのケンカが間近で見られるかも?



ヘラクレスオオカブト



コーカサスオオカブト

② 巨大な昆虫

カミキリムシ、ハナムグリ、ナナフシ、タガメ、ガなどの巨大な仲間を展示しています。世界最大のチョウといわれるアレクサンドラトリバネアゲハや、翅の面積世界一のチョウといわれるゴライアストリバネアゲハも展示しています。巨大な昆虫の迫力をお楽しみください。また、めったに見られない8本脚のシラフオオツノハナムグリの標本や、色素発現異常のゴライアストリバネアゲハの標本も展示しています。



アレクサンドラトリバネアゲハ



シラフオオツノハナムグリ



ゴライアストリバネアゲハ (色素発現異常)

③ 美しい昆虫



ニシキツバメガ

翅が美しい青色に輝くモルフオチョウの仲間、空飛ぶ宝石と呼ばれるミイロタテハの仲間、チョウに負けない美しさを誇るが、メッキを施したように美しく輝くブラチナコガネの仲間、宝石のように美しいゾウムシ、タマムシなどを展示しています。きらびやかなものから燦し銀のようなしづみのあるものまで、昆虫のもつ美しい輝きにきっと目を奪われるはず!



キプリスモルフオ



ハウセキゾウムシ



ブラチナコガネの1種



クラウティナミイロタテハ

④ へんてこな形の昆虫

木の葉そっくりのコノハムシ、バイオリンみたいな形のバイオリンムシ、三葉虫にそっくりなサンヨウベニボタルなど、へんてこな形の昆虫を展示しています。日本では見られない花びらや枯葉、枯れ枝そっくりのカマキリや、複雑怪奇な角を持つツノゼミの仲間も展示されており、このコーナーだけでも昆虫の形態の多様さ・面白さを感じていただけるはずです。



オオコノハムシ



サンヨウベニボタルの一種



バイオリンムシ

近年、福井県で発見された ナガレタゴガエル

川内 一憲 (福井県両生爬虫類研究会)
藤井 豊 (福井大医学部分子生命化学)

ナガレタゴガエルは、溪流性のアカガエルの仲間で、関東から中国地方西部に断続的に分布し、標高300～1000mの山間部の森林帯に生息する日本固有のカエルである。1978年東京都奥多摩の日原川で、写真家桜井淳史により初めて発見され、1990年に新種記載された。その後、関東・北陸・中部・近畿の各地方で、さらに、2000年代に入り中国地方でも分布が確認され、現在、本種の分布が確認されているのは21都府県にのぼる。

ナガレタゴガエルは、体長が38～60mmで、雌の方が雄より大きい。雄は、水中でグググ、グググと不規則に鳴く。体色は暗褐色から赤褐色で、喉の下にタゴガエルと同様に暗色の細かい斑点がある。後肢が長く、みずかきは非常に発達している[写真1・2]。繁殖期間中は体側の皮膚がたるみ、木の葉状になる。特に雄で著しい[写真3]。ナガレタゴガエルは、同所的に分布が確認されている近縁種のタゴガエルと幼体や非繁殖期における外部形態が似ているため、両種の識別には十分注意が必要である。

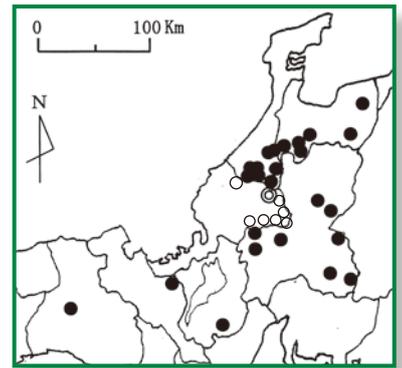
普段は山間の溪流付近の林床部に棲むが、秋季には溪流に集まり、水中の石の下で越冬する。2～4月の繁殖期になると、よどみや淵などに集まり、雌は岩や石の下に約100～150個の卵を含む白い卵塊を産み付ける[写真4・5]。幼生は石や堆積物の下で過ごし、6～7月に変態、上陸する。上陸後は溪流付近の林床部に移動し、雌雄ともに上陸後3年で繁殖が可能になる。

2008年以前は、本県にナガレタゴガエルの生息確認の報告はな

かったが、平成21年度福井県大学連携リーグ・連携研究推進事業の助成を受けて実施したカエルツボカビ症の調査にて、2009年10月に勝山市の滝波川水系の上流(標高510～810m)から本種を発見し[図1、写真3・6・7]、雌雄各1個体を標本として福井市自然史博物館に寄贈した。これが本県でのナガレタゴガエルの初記録となった。これにより、本県のカエル類は1種増え4科14種(ウシガエルを含む)となった。

2013年現在までの調査で、県内でのナガレタゴガエルの分布は、坂井市丸岡町上竹田から勝山市、大野市温見峠までの標高500～1000mの溪流付近から22地点で確認されている。今後、本県おおい町と京都府丹南市(旧美山町)境の周辺でも、本種の発見が期待できる[図1]。本種の県内の分布状況を把握するため、さらに詳細な調査を継続する必要がある。

ナガレタゴガエルは、山間の林床部や溪流に生息するため、道路や堰堤工事、周辺森林の荒廃、斜面の崩落などに伴う林床の乾燥化や産卵場所である溪流の水温、水質の変化など生息環境の悪化が懸念される。



[図1] 福井県とその周辺地域のナガレタゴガエルの分布 (○: 本県で初確認の生息地/●: 既知の生息地/◐: 本県の生息地)



[写真1] ナガレタゴガエルの後肢の著しく発達したみずかき



[写真2] タゴガエルの後肢のみずかき



[写真4] 抱接中のナガレタゴガエル (2009.10.30 勝山市)



[写真5] ナガレタゴガエルが産卵した卵塊 (2010.4.1 勝山市)



[写真3] ナガレタゴガエルの体側の皮膚がたるんだ成体雄 (2010.3.4 勝山市)



[写真6] ナガレタゴガエルの抱卵した成体雌 (2009.10.24 勝山市)



[写真7] 最初に確認されたナガレタゴガエル生息地 (2009.10.18 勝山市の滝波川支流)

モリアオガエルの不思議な話。

斑紋がある？ない？



(採集地: 大野市刈込池)

春から初夏にかけて繁殖期を迎えるモリアオガエル。博物館の前にある天魔ヶ池にも産卵し、その姿を見たことがある人も多いと思います。福井県内で広く見られるモリアオガエルは綺麗な緑色一色をしています。背中に茶褐色の斑紋が出る個体も知られています。県内では斑紋があるモリアオガエルの分布についてはあまり知られていませんでしたが、坂井市、勝山市、大野市、南越前町のいずれも標高の高い場所にある池で網目状に斑紋が入るモリアオガエルを確認しました。

なぜこれらの地域で網目状の斑紋が入る個体群が生息しているのか、県内で他にも生息している地域があるのか、網目状ではなく、大きな斑紋を持った個体群は存在するのかなどこれから調べなければならないことはたくさんあります。

(学芸員 梨木之正)

(採集地: 足羽山)



新職員紹介



ありまたつや

〈学芸員〉有馬達也

4月から、古生物担当の学芸員として働くことになりました。専門は貝化石で、大学では貝化石の形態について研究を行ってきました。福井は恐竜が有名ですが、その他にも化石が豊富に産出します。市民の方々に化石の魅力を知ってもらえるよう努めていくと同時に、貝化石のみならず様々な化石について学んでいこうと思います。



すずき さとし

〈学芸員〉鈴木 聡

大学院では哺乳類、特にイタチの仲間の骨の形を研究していました。野外での調査、標本作り、展示などを通じて、動物の生態や形態の面白さ、不思議さを多くの方に伝えていければと思っています。福井にやってきたばかりでわからないことだらけですが、市民のみなさんと一緒に身近な自然について学んでいきたいと思っています。よろしくお願いたします。



なかむらかずえ

〈主幹〉中村一枝

この度、自然史博物館にお世話になります。足羽山は私の地元であり、幼い頃は山を駆けずり回ったものです。勤務について早4ヶ月がたち足羽山の様々な風景・鳥達のさえずり等、心を癒してくれます。また、学芸員達の考え抜かれた展示・行事を計画して皆さんのお越しをお待ちし、私も少しでもお役に立てればと思います。これからよろしくお願いたします。

《あとがき》

今号では、カエルの話題を取り上げました。春から夏に田んぼに響くカエルの合唱は、季節の風物詩として私たちに身近なものですが、個々のカエルの種でみるとまだまだ変異や分布など調べるべきテーマがたくさんありそうです。なんとなくカエルは苦手という方もいらっしゃると思いますが(私もそうでした...)、よく観察するとその表情やしぐさはかわいらしいものです。水辺に生きる小さな命にも目を向けてみてください。

昆虫も私たちにとって身近な存在ですが、その生態・形態の多様性には無限の奥深さを感じます。博物館では「世界の大むしむし展」を開催中です。世界のかっこいいカブトムシやクワガタムシ・美しいチョウや甲虫など、自然が作り出した芸術品である昆虫の世界をご覧頂き、多くの方が昆虫やそれを育む自然に興味を深めるきっかけとなることを願っています。(梅村)

《交通案内》

【電車】

●福井鉄道福武線 公園口駅 徒歩20分

【バス】

- 京福バス: 清水グリーンライン(74系統) 足羽山公園下バス停(あじさいの道登る)、不動山口バス停(藤島神社登る) 各徒歩10分
- コミュニティバスすまいる: 西ルート(足羽・照手方面) 愛宕坂バス停 徒歩10分

【徒歩】JR福井駅から徒歩30分

《ご利用案内》

開館時間 ●午前9時～午後5時15分(入館は午後4時45分まで)
休館日 ●月曜日(祝休日は開館)、国民の祝休日の翌日、年末年始

入館料 ●高校生以上100円(20名以上の団体は半額)
中学生以下、70歳以上、
障害者および付添の方は無料

